

平成 20 年 5 月 16 日

1 平成 20 年 3 月期の連結業績（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

（百万円未満切捨て）

（1）連結経営成績

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20 年 3 月期	82,707	4.4	4,060	5.3	4,147	4.1	2,476	4.4
19 年 3 月期	79,245	1.2	4,289	0.8	4,327	2.2	2,592	30.0

	1 株当たり 当期純利益	
	円	銭
20 年 3 月期	154	83
19 年 3 月期	162	04

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
20 年 3 月期	73,045	24,877	33.5	1,528	07
19 年 3 月期	74,120	23,040	30.6	1,417	18

（注） 連結対象会社は 5 社

期末発行済株式数（自己株式を含む） 20 年 3 月期 16,015,756 株

19 年 3 月期 16,015,756 株

2 平成 21 年 3 月期の連結業績予想（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通 期	90,000	8.8	3,700	8.9	3,720	10.3	2,100	15.2

上記の予想は本資料の作成日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

3 当期の事業の概況

重仮設事業では、重仮設資材に係わる商品、加工および工事の受注拡大に注力いたしました。また、地域特約店との連携を強化し、スピード対応を心がけ、商品や技術的な提案を積極的に行ない顧客に対する付加価値の提供に努めてまいりました。その他、エムエヌ建材株式会社からスリップ防止型覆工板である「スターデッキ」を全量譲受けて商品の充実を図りました。工場においても、シートパイルの修理能力向上をはじめ、加工業務のさらなる効率化を進めました。さらに、鋼材価格が高騰する中、資材の賃貸単価の適正化にも注力してま

いりました。

補強土事業では、自治体の予算縮小に伴って、テールアルメ工法やNSSブロック、アーチカルバート商品の受注環境が厳しさを増す一方でありました。特に地域によっては、12月までに発注された物件が年度内に施工されず、次期に繰り越されるケースが顕著に見られるようになりました。こういった厳しい環境の中、スーパーテールアルメを中心に、民間物件の受注にも取り組み、商品の拡販とスペック量の確保に注力いたしました。

海外の事業展開としては、昨年夏にシンガポールで重仮設資材リース業を行なう唯一の日系企業であるJスチール シンガポール株式会社の発行済株式 95%を取得いたしました。また、ベトナムにおけるインフラ整備事業の活発化を背景に、具体的な事業探索のためにホーチミンに駐在員事務所を開設いたしました。

なお、組織面では、重仮設や補強土といった事業の壁を越えた総合力を高めていくこととし、カンパニー制を廃止して事業本部体制に移行しました。さらに、東北地区での重仮設事業を担ってきたヒロセ東北株式会社を、平成20年4月1日を期日として当社が吸収合併いたしました。

以 上